

# 日本児童英語教育学会

(The Japan Association for the Study of Teaching English to Children)

## 中国四国支部 Newsletter

No.18(2008 年秋号)

### 第 25 回 中国四国支部研究大会 レポート

2008 年 5 月 25 日 (日), 第 25 回中国四国支部研究大会が「小学校英語教育の本格実施を見据えた研究と実践」というテーマのもとに, ひろしま国際センターで開催され, 講演, 実践報告, 研究発表 2 件および全体討議が行われた。以下, 当日朝から夕刻まで開催された研究大会の様を, 支部役員による「参加レポート」の形で掲載する。



#### 研究発表

「小学校英語活動における『児童の不安の強さ』と『求める教師支援』との関係」

松宮奈賀子  
(広島経済大学)

松宮先生は英語教育を専門とし, 10 年以上小学校における英語教育の研究に取り組んでいる。特に小学生が英語の授業に対して抱く緊張, あせり, 心配, 恥ずかしさ, あがりなどの不安の強さの程度により, 英語学習に対する好意や意欲に違いがあるのかについて概観した上で, 不安を強く抱いている児童はどのような教師支援を求めているのかを質問紙調査結果より考察したものである。

調査は 4 つのセクション (①英語活動に対する興味関心を問う, ②英語学習における不安を問う, ③不安場面をどのように捕らえるのかを問う, ④どのような教師サポートを望んでいるのかを問う) に分けてされている。その結果, 不安は学年に関係なくあるが, 不安が強い児童の方が好意や意欲が低いという結果は認められず, 不安の強さに関係なく児童は英語活動に比較的高い好意や意欲を抱い

ていることが明らかになった。しかし, 不安が強い児童ほど, 人前でどう発言 (発音) してよいか分からなくなってしまった場面など不安が喚起される場面では, 「発表したくない」, 「人と同じ答えを言うておこう」といったネガティブな対応をしがちであることが分かった。さらに, 不安が強い児童は教師からの支援をより強く求めていることも明らかになったことから, 児童の不安を理解したうえで, 適切な支援をすることが必要であると結んでいる。

教育課程の改定に伴い, 5・6 年において年間 35 時間の外国活動が始まる。それに向け, 各小学校から 1 名「小学校外国語活動推進教員」として研修を受け, 校内における伝達講習を 2 年間で 30 時間行うことが課せられている。英語活動に対して差のあったすべての公立小学校で, 手引きや DVD [You can do it!] を参考に, 手探りで始まったばかりである。今後, どのような教師支援が効果的であるかについての報告を待ちたい。

西谷恵美子 (府中町立府中東小学校)



#### 研究発表

「『夏休み小学校教員のための英語塾』における『発音クリニック』研修-広島市教育委員会との合同授業に向けた安田女子大学・短期大学英語教員のチャレンジ」

松岡博信(安田女子大学)  
平本哲嗣(安田女子大学)

松岡先生・平本先生によるご発表は, 昨年の夏休みに広島市教育委員会から委託を受けて安田女子大学にて実施された「夏休み英語塾」に関する, 情報に満ちたご発表であった。

まず「夏休み英語塾」を広島市の小学校

教員を対象に開講するきっかけとなった「ひろしま型カリキュラム」の導入について説明がなされた。この小中9年間を見通した広島市独自のカリキュラムでは、小学校5・6年生に「英語科」が導入されるが(平成22年度より実施)、そのための研修担当として、初等教育と英語教育の双方に関わる学科を持ち、優れた教員を多数輩出し続けている安田女子大学がその任を受けられたのである。

安田女子大学では昨年度より「児童英語教育講座」が開設されているが、その履修対象者年次の学生を対象に意識調査が実施された。その結果、学生たちは「児童に英語を教えるために身につけるべき力」として「話すこと」と「発音」を重視していることが明らかとなった。この学生のニーズはこれから英語指導に当たる小学校教員にとっても同様と考えられ、先述の「夏休み英語塾」においても「発音クリニック」なる演習授業が展開された。

この「発音クリニック」では、テキスト作成、教材音声録音に始まり、発音に関する講義、少人数による演習、安田女子大学教員による個別発音チェックなど、きめ細かい指導がなされた。参加者たちの授業後アンケートにおいては、これらの「個別指導・少人数指導」に対して高い評価がなされており、「しんどさ」や「厳しさ」の中に「楽しさ」や「身についた充実感」が伺えた。また、夏休み中に全部で4回行われた「英語塾」であったが、回を追うごとに「発音クリニック」への評価は高まっていったとのことで、指導にあたられた安田女子大学の先生方が同じ講義をただ毎回繰り返したのではなく、1回1回の経験を次の講義の充実へと反映させて行かれた様子を感じることができた。

本年度も開講される「夏休み英語塾」であるが、教材を一新させ、CD教材の再録音から取り組まれるとのことであった。安田女子大学の先生方の素晴らしい熱意が、広島市の小学校英語教育に活かされ、児童の充実した英語学習へと繋がっていくことが存分に期待できる取り組みであると感じた。

松宮奈賀子(広島経済大学)



## 講演

「子どもの心を引きつけるストーリーテリングを使って—自然なインプット・アウトプットを促す指導法」

金山 敬

(京都外国語大学 大学院非常勤講師、  
ソフィア・イングリッシュハウス主催)

金山先生の講演を伺って、改めて絵本の素晴らしさを強く感じ、また絵本一冊で様々な英語活動が出来る事を学び、何より大人の私たちが絵本を通して、とても楽しく過ごすことが出来た時間でもあった。絵本の素晴らしさについて、幼稚園でも15年にわたり英語の専任講師を勤められた金山先生は次のように語っておられる。「絵本は子どもたちの心の宝庫であり、同時に言葉の宝庫です。様々な内容や課題を持つお話は子どもたちの想像力を伸ばし感性を養います。また美しい絵は日本語を介さず、お話を理解する大きな助けになります。絵本の世界を楽しみながら、英語の持つリズム、音声、語感に親しみ、次第にリーディングに導いていくことも出来ます。」と。

今回の講演ではまず、絵本によって、現実にはないワクワクした面と、現実的・教訓的な面をもつこと、その両面の重要さを指摘された上で、G. Ellis と J. Brewster の著書を引用しながら、絵本を選ぶ基準として、大きく言語面・心理面・文化面が考えられること、さらに細かな要素として、言語的なレベル、ライムやリズムを含む発音的要素、内容、視覚的要素、子どもたちの積極的参加方法、動機付け、好奇心、肯定的な態度の育成、使用言語などを挙げられた。続いて、金山先生お勧めの絵本を紹介しながら、読む対象年齢による絵本の始め方、読み方の工夫、また絵本によっては読むだけでなく五感を使って楽しめる事、リズムにのせて読んだり問いかけたりすることで、子どもたちは更に楽しめる事も指摘された。

読み聞かせの後の様々な活動も非常に興味深かった。今回は絵本に出てくる単語の絵カードを使ったものが主であったが、単に単語を覚えるだけではなく、カードとりをするにも、ox と fox, bear と hare 等ラ

イムしているものを選びせる、3ヒントクイズ、陣地とり、ババ抜き的遊び方等を次々と紹介して下さい。

最後に子どもたちや学生が創作した絵本の作品も紹介され、絵本の活動を通して「子どもは言えるようになるのが楽しい。言えるようになると文字を見て類推し、自然に文字に親しむようになる」と言われたのが印象的だった。英語に興味を持たせるだけでなく、豊かな感性をはぐくむ絵本をますます使ってみてみたいと思った講演であった。

大谷みどり（島根大学嘱託講師）



### 実践報告

「人のかかわりから年間指導計画を考えるー実践的コミュニケーション力をつけるために」

中井ひろみ（府中市立南小学校）

今年の4月より府中市立南小学校教頭として勤務される中井先生は、3月まで尾道市立長江小学校で研究主任を務めておられた。そこでの研究主題を『『かかわり』で高まる知の創造』と掲げられ、実践的コミュニケーション能力の基礎を培う英語活動はどうあるべきかについて、研究された。

年間指導計画を作成するうえで、重視されたことは次の7点である。1) 児童の身近な題材・場面設定を取り入れ、英語を話す必然性を作り、話すことに強い意欲や関心をもたせる。2) 6年間でどのような児童に育てるのか、各学年でどのような姿をめざすかを明確にする。3) 低・中・高学年をくりとして単元配列を行い、系統化を図る。4) 果物・野菜・動物・文房具・職業など、様々なジャンルの単語を、少しずつ難易度を高めながら、スパイラルに繰り返し学ばせる。5) 各単元を3～4時間で扱うユニットにし、どの時間でも必ず「自分のことを話す」場面を設ける。6) 地域の特性を生かした内容を取り入れる。7) 絵本が児童の「実践的コミュニケーション能力」に及ぼす影響が大きいと考え、計画的に有効活用する。

実践報告の中で、会場から思わず「すごい！」という驚きと感動の声が聞かれたの

は、実際の英語活動の授業の映像で、児童の生き生きとした姿を目の当たりにした時である。

授業「聞いて！ ぼくの夢・わたしの夢」で、4年生児童は“What do you want to be” “I want to be ～.” “Why?” “Because ～.”という表現を用いて、ジェスチャーたっぷりに笑顔で相手に伝えようとする意欲はすばらしかった。授業は既習表現と組み合わせ、歌、チャンツの手法で表現になじむとともに、英語のリズム・強弱等を習得している。中井先生の英語によるテンポのよい授業進行、ALTの先生との掛け合いは実に見事であった。

映像からは、先生の創意工夫や豊かさによって、児童のコミュニケーション能力が育まれていることがストレートに伝わり、会場では大きな拍手が沸き起こった。

川口康子（鳥取短期大学）



### 中国四国支部 活動報告

5月25日（日）に開催された第25回支部研究大会において支部総会が開催された。次第は以下のとおりである。

#### ○議題

1. 2007年度活動報告
2. 2007年度会計報告
3. 2008年度事業計画
4. 2008年度予算案

#### ○諸連絡

1. 学会案内
2. その他

2007年度の活動報告がなされた後、代表幹事より2007年度の会計報告がなされた。会計監査担当者より監査報告を受け、出席していた会員より承認された。

中国四国支部では支部研究大会の他に、児童英語指導法研究部会、およびワークショップを開催している。

今年度の児童英語指導法研究部会の活動日程は以下のとおりである。

第1回「日本の童話を英語にして一小3に英語を読ませる―」(終了)  
開催日：2008年4月5日(土)  
鶴田マリ(広島YMCA外語学院名誉学院長)

第2回「広島市の小学校英語活動と児童英語教材紹介」(終了)  
開催日：2008年6月26日(木)  
講師：西尾亜紀子(Bear's English House),  
畑堀祥子

第3回「広島市の小学校英語活動と児童英語教材紹介」(終了)  
開催日：2008年7月9日(水)  
講師：畑堀祥子

第4回「小学校校内研修―フォニックス指導をやってみて」(終了)  
開催日：2008年7月27日(日)  
講師：石橋智子(Lollipops)

第5回「教材研究～絵本の部～」(終了)  
開催日：2008年9月20日(土)  
講師：西尾亜紀子(Bear's English House)

第6回「海外での児童英語指導法講習会報告会」(仮題)(終了)  
開催日：2008年10月10日(金)  
講師：生和裕美  
時間：10:30-12:00

第7回「テーマ未定」  
日程：2008年10月24日(金)  
会場：広島市立留学生会館  
講師：久埜百合  
時間：10:00-11:20

※参加希望の方は國本 (bisa@urban.ne.jp) までメールでお申し込みください。

昨年度、ワークショップは徳島県と広島県で開催した。その概要は以下のとおりである。

第1回『聞く』ことを大切にした英語活動  
開催日：2007年8月22日(水)

会場：松茂町立松茂小学校  
1. 「英語を通して国際理解的な活動-その活動例と教材紹介」  
マーク・フェネリー(四国大学)  
2. 「他教科と関連した英語活動の実践例と教材」  
吉山京子(松茂小学校)

第2回「小学生と英語を楽しむ」  
開催日：2008年2月17日(日)  
会場：広島市西区民文化センター  
1. 「数で遊ぶ-学年別アクティビティ-」  
國本和恵(子供英語)  
2. 「小学生のプレゼンテーション-お互いのことを知ってみよう-」  
鎌足亜紀子(Bear's English House)  
3. 「小学生と楽しむ体を動かすタイム」  
鶴田マリ(広島YMCA外語学院名誉学院長)

今年度のワークショップ開催については未定である。決まり次第、本支部のウェブサイトにて情報を掲載する。



## 第26回支部研究大会のご案内

大会テーマ  
「●●」

10:00 受付開始

午前の部

司会 川口康子(鳥取短期大学)

10:20-10:30 開会の挨拶

國本和恵

(JASTEC中国四国支部・支部長 子供英語)

10:30-11:10 研究発表

「小学校英語活動における『児童の不安の強さ』と「求める教師支援」との関係」

松宮奈賀子  
(広島経済大学)

11:10-11:50 研究発表

「『夏休み小学校教員のための英語塾』における『発音クリニック』研修-広島市教育委員会との合同事業に向けた安田女子大

学・短期大学英語教員のチャレンジャー」

松岡博信

(安田女子大学)

平本哲嗣

(安田女子大学)

11:50-13:00 昼休み

午後の部

司会 金森 強 (松山大学)

13:00-13:10 支部総会

13:10-14:40 講演

「子どもの心を引きつけるストーリーテリングを使ってー自然なインプット・アウトプットを促す指導法」

金山 敬

(京都外国語大学 大学院非常勤講師, ソフィア・イングリッシュハウス主催)

14:40-15:00 休憩

15:00-16:00 実践報告

「人のかかわりから年間指導計画を考えるー実践的コミュニケーション力をつけるためにー」

中井ひろみ

(府中市立南小学校)

16:00-16:30 全体討議

16:30-16:40 閉会の挨拶

鶴田マリ

(広島 YMCA 外語学院名誉学院長)

- ※ 研究大会参加費：一般 2,000 円, 学生 1,000 円 (JASTEC 会員は無料, 賛助会員は 3 名まで無料)
- ※ 研究大会の参加予約は必要ありません。当日, 会場の受付までお越しください。
- ※ 中国四国支部では 2009 年 5 月に広島市で開催を予定しております来年度第 1 回研究大会の発表者を募集しております。詳しくは以下の事務局にお問い合わせください。

JASTEC 中国四国支部事務局

731-0192 広島市安佐南区祇園 5-37-1

広島経済大学 松宮奈賀子研究室内

TEL: 082-878-9637(直通)

FAX: 082-878-9269

E-mail: n.matsu1321@hue.ac.jp

Home Page: <http://ace1.yasuda-u.ac.jp/~jastec/chushi>

編集後記

お気づきの方もおられるかもしれないが、本支部の活動の多様化にともない、今回のニューズレターから支部研究大会だけではなく、児童英語指導法研究部会、およびワークショップについても報告をすることとした。児童英語教育に関心を持つ方が増え、その要求に応えるべく本支部ではさまざまな活動を行ってきたが、ニューズレターを通じてその内容に関心をもっていただければ幸いである。

前回の支部研究大会では金山先生のご講演をはじめ、実践に軸足を置いた発表が多く、参加者の反応も驚きと喜びが入り交り、非常に生き生きとしたものであった。またこれは最近の傾向であるが、本支部の行事では学生の参加者が増えてきている。これは自分の将来を見据えた上で、児童英語教育について深く学びたいという若い意欲の表れであるといえよう。優秀な人材の育成という観点からも本支部の果たすべき社会的役割は大きい。

児童英語教育指導法研究部会では、10月24日(金)に久埜百合先生においでいただく予定となっている。久埜先生のお話が聞ける貴重な機会であり、会員、非会員に関わらずぜひご参加いただきたいと考えている。もし児童英語教育について少人数で深く学びたいという方がおられたら、この研究部会をぜひ活用していただきたい。

なお、今年6月の全国役員総会における承認を経て、広島経済大学の松宮奈賀子先生に支部事務局長をお務めいただくこととなった。また、ニューズレターの方は、今回より平本が担当となり、支部の活動について情報発信を行う。新しい事務局長のもと、役員一同、中国四国支部を盛り上げていきたいと考えている。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

(H)

JASTEC 中国四国支部 Newsletter No.18

2008 年 10 月 1 日発行 (編集 平本哲嗣)

(付記)

JASTEC 中国四国支部役員  
(2008 年度 10 月現在)

\* [ ]内は全国本部役員名

顧問 五十嵐二郎  
(広島大学名誉教授)

顧問 鶴田マリ  
(広島 YMCA 外語学院名誉学院長)

支部長[理事]・広島ワークショップ担当  
國本和恵  
(子供英語)

支部事務局長[運営委員] 松宮奈賀子  
(広島経済大学)

幹事[理事]・鳥取ワークショップ担当  
川口康子  
(鳥取短期大学)

幹事[理事] 築道和道  
(広島大学)

幹事[理事] 金森強  
(松山大学)

幹事[運営委員] 松岡博信  
(安田女子大学)

幹事[運営委員]・ニューズレター担当  
平本哲嗣  
(安田女子大学)

幹事[運営委員] 西谷恵美子  
(府中町立府中東小学校)

幹事[運営委員]・徳島ワークショップ担当  
吉山京子  
(松茂町立松茂小学校)

研究員・会計担当 中根千春  
(Fun Can 英語教室)

研究員・会計監査 恵良上枝  
(公文式教室)

研究員 鉄森令子  
(大日本ランゲージクラブ)

研究員 マーク・フェネリー  
(四国大学)

研究員 大谷みどり  
(島根大学嘱託講師)

研究員 名合智子  
(中国短期大学)

研究員 西尾亜紀子  
(Bear's English House)

計 18 名